

外国語教育部会授業研究会



特別支援学校における外国語活動では、体験的な活動を通して楽しみながら学習をすすめています。本授業では「色」という単元で、(1) オリジナルトレーナーづくり (2) 英語で福笑い、という2つの活動をおこないました。

T1: What color(sticker) do you want?

S: Red(Stars), please.

T1: Here you are.

S: Thank you.

T1: You're welcome.

まず(1)では、①T1に自分の好きな色のトレーナーを伝える。②トレーナーの枠線に沿ってハサミで切り、台紙に貼る。③トレーナーの模様にしたシールをT1に伝える。④台紙に貼ったトレーナーにシールを貼る。という手順ですすめました。①や③の活動では、ある子どもと左記のような会話が交わされました。文法等の解説はしておらず、くり返しのやりとりの中で子どもは、自然と会話の意味を理解し、英語で会話をしていました。②の活動については、

外国語の授業とは一見かけ離れたものですが、特別支援学校の子どもにとって作業学習は、彼らの将来につながる大切な学習の1つとなっています。外国語に限らずどの授業にも盛り込み、力を養っています。

次に(2)の活動では、チーム対抗戦のゲーム形式でおこないました。「色+顔パーツ」を子どもAが仲間に伝え、子どもBが並べられた複数のパーツから選び取り、前に貼りに行くという活動でした。子どもたちにとって、ボディイメージを正しく認識することも必要な学習なので、「福笑い」はよくおこなわれています。今回「外国語活動」ということで、黒や黄色の顔、緑や青色の目などカラフルなパーツを準備しました。この授業の結びに、でき上がった福笑いの作品を見ながら、T1が「こんな顔の人もいるかな？」の問いかけに子どもたちからは「いない」という言葉が返ってきました。その後、世界の様々な人種の人たちの集合写真のスライドを見せ、「世界はたくさん色であふれているんだよ。」という『多様性』についてのメッセージを伝えました。

その他、特別支援学校における授業での特徴的なとりくみとして、①授業の流れを黒板に提示する。(自閉症の子どもが見通しをもって授業に臨むための支援) ②各活動の流れについても視覚化しスライドで提示する(視覚優位な子どもへの支援)。③カードやDrop talkの利用(発語の難しい子どもたちへの支援)等、子どもたちの特性に配慮した手立てを準備しています。

今回、子どもへの支援のあり方として様々な学びがありました。その中でも、一人ひとりの目標と支援の手立てがあきらかでした。例えば、全体へは黒板への本時の流れの提示や一つひとつの言葉をテレビ画面に映すなどの視覚的な補助、個人には色の補助カードの準備やタブレット端末を使っての音声補助など、ユニバーサルデザインによる支援の工夫が施されていました。また、自分の席の隣の子どもを手をつなぐ、一緒にタブレット端末の操作をする、教員に代わってバギーを押すなど、子どもたち同士がお互いを支え合う場面も多くみられました。これは普通の学級づくりが子どもたちをつなぐことを基本的に置かれているからに他なりません。そして、本時を振り返ると、ねらいは単に英語で色の言い方を表現するだけではなかったということがわかりました。オリジナルトレーナーづくりではその作品が誰のものかを当てることで学級の仲間についてより深く知る「他者理解」の場となったり、福笑い遊びを通じた活動の中では「世界の人々や人種、多様性に気づくことができるアプローチ」がなされていたりと、「外国語教育」が本来めざす「四目的」が根本に流れる実践であったと言えます。

外国語教育部会では、「四目的」を基本に、子どもたちを中心にすえた「わかる授業、たのしい学校づくり」をめざし、今後も研究活動を続けていきます。

外国語教育の四目的

- (1) 外国語の学習をとおして、世界平和、民族共生、民主主義、人権擁護、環境保護のために、世界の人びととの理解、交流、連帯をすすめる。
- (2) 労働と生活を基礎として、外国語の学習で養うことができる思考や感性を育てる。
- (3) 外国語と日本語とを比較して、日本語への認識を深める。
- (4) 以上をふまえながら、外国語を使う能力の基礎を養う。